

平成26年度研究成果報告書《平成26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	59	都道府県・指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	社会科
研究課題	<p>新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、社会的な事象について自ら考えたことを表現・交流することにより、社会的な見方や考え方を培う。</p> <p>～子供の思考・判断・表現力を養う教材開発・単元構成・学習展開の在り方について～</p>				
ふりがな 学校名 (児童数)	きょうとしりつ いわくらきた 京都市立 岩倉北 小学校 (303人)				
所在地 (電話番号)	〒606-0021 京都市左京区岩倉忠在地町5番地 電話 (075) 721-5618				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=106306">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=106306</a>				
研究のキーワード					
①子供の問題解決への思考を促す学習展開の工夫 ②学習の見通しをもつことができる学習活動の工夫 ③討論的な活動を通じた、思考力、表現力、判断力を育てる指導方法の工夫 ④これからのよりよい社会を考える内容の教材開発の工夫					
研究成果のポイント					
①子供たちの思考が連続し、問題解決へと向かう方法の妥当性とその効果 ②学習の見通しを子供たちに共有させる方法の妥当性とその効果 ③話合いの活動を活発にする方法の妥当性とその効果 ④よりよい社会を考える上での教材の妥当性とその効果					

1 研究主題等

(1) 研究主題

問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、社会的な事象について自ら考えたことを表現・交流することにより、社会的な見方や考え方を培う。

～子供の思考・判断・表現力を養う教材開発・単元構成・学習展開の在り方について～

(2) 研究主題設定の理由

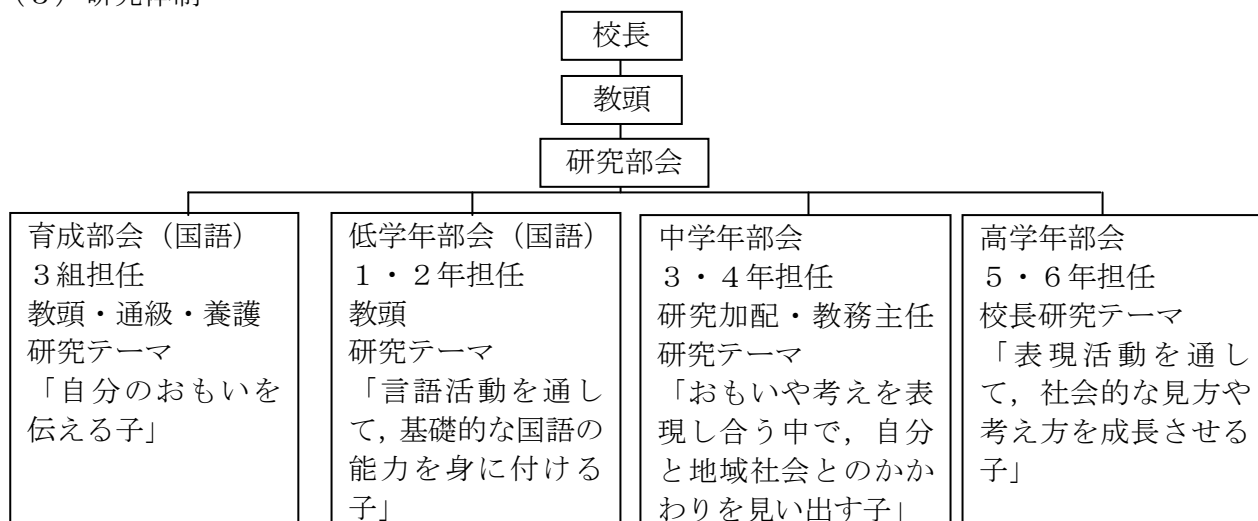
本校は、社会科を通して子供の思考・判断・表現力の育成、普通授業の充実の研究に取り組み今年度で6年目となり、研究に向かう体制が整備・充実してきている。京都市教育委員会からは、平成23・24・25年度に「豊かな学びリーディングスクール（社会科）」推進事業指定をうけ、社会科指導の在り方について、実践を通して研究を進め、研究の内容を発信し続けてきている。平成25年度には教育課程研究指定事業をうけ、「5年産業学習における教材と学習展開の在り方」・「6年歴史学習において、子供に歴史を学ぶ意味、意義を考えさせる授業の在り方」について研究を進めてきた。

今年度は、5年間の研究の積み重ねや、昨年度の取組を基盤に、さらなる問題解決的な学習の充実を推し進めることが課題である。そのため、研究主題については昨年度の「問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、社会的な事象について自ら考えたことを交流することにより、社会的な見方や考え方を養う。～小学校社会科学習における教材・単元構成・

学習展開の在り方について～」を概ね踏襲した。

その中で今年度の研究主題において特に強調すべき点は、「子供の思考・判断・表現力を養う」である。子供が生きる上で必要とすべき上記の能力について社会科を通してどのようにつけていくかを研究していきたい。

### (3) 研究体制



### (4) 1年間の主な取組

平成 26 年度	4月 9日	研究の方向についての提案と共通理解
	5月 29日	実践研究① (子供の問題意識, 学習問題, 予想から学習計画に向かう学習過程の在り方)
	6月 12日	実践研究② (単元構想, 単元計画, 学習過程の在り方)
	9月 9日	実践研究③ (思考力, 表現力, 判断力を育てる具体的実践)
	10月 10日	実践研究④ (よりよい社会を考えるための, 有効な教材開発)
		研究の整理 (第1次分析)
	11月 7日	研究発表会の実施 (全国小学校社会科研究協議会研究大会)
	11月 13日	研究の整理 (第2次分析)
	2月 3日	研究報告会
	2月 26日	研究の総括 (成果と課題)

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①子供の問題解決への思考を促す学習展開の工夫

問題解決的な学習において、「問い」が教師の示すものであるのか、あるいは子供にとっての「問い」であるのかには、問題解決的な学習を充実させる上で大きな隔りがある。単元 (小単元) あるいは1時間の授業を構成するに当たっては、到達すべき知識に行き着くまでの問いが子供たちの意識から生み出されるような学習展開の工夫について研究する。

#### ②学習の見通しをもつことができる学習活動の工夫

①の子供の問題解決への思考を促す学習展開を支えるのが、単元 (小単元) あるいは1時間の授業の導入時における問題意識の高まりと、その解決への道筋の見通しを子供たち自身がもてることである。導入時の問題意識を継続させながら単元 (小単元) あるいは1時間の授業の終末へと学習を進めていく学習活動の工夫について研究する。

#### ③討論的な活動を通じた、思考力, 判断力, 表現力を育てる指導方法の工夫

子供の思考力, 判断力, 表現力を育てるためには、討論的な活動をはじめとする話し合い活動の充実が必要である。授業では、子供たちが積極的に自らの考えを表現し合うことによって、多面的なものの見方や考え方を学び合う場が生まれる。そして子供たちにはそのようなさまざまな立場や考えに基づくものの見方や考え方を根拠に判断していく経験を積み重ねていきたい。そこで今回は、討論的な話し合い活動を成立させるための指導方法の工夫について研究する。

#### ④これからのよりよい社会を考える内容の教材開発の工夫

資源の少ない我が国が現在の世界的な地位を確立してきた一つの理由として、倫理観や道徳観に裏付けられた知恵や忍耐強く努力する力などを日本人が有してきたことが考えられる。震災による大きな被害からの復興の遅れや景気の低迷，エネルギー問題や少子高齢化といった数多くの困難を迎えている今日の我が国において，そういった現状を乗り越えようとしている（してきた）「人」に今一度着目し，未来を前向きに捉えることができるような教材を研究する。

### （２）具体的な研究活動

#### ①子供の問題解決への思考を促す学習展開を行うために

##### ○単元構想図の作成

単元を通して子供の問題意識を連続させていくために，単元構想図を作成する。単元構想図を作成するにあたって，留意することは次の３点である。

- ・単元の終末で到達させたい知識を明確にしておく。
- ・学習指導要領と教材の内容分析を前もって行っておく。
- ・次時への問題意識が子供たちから生み出されるような学習展開を練る。

##### ○新たな疑問を生み出す資料

単元（小単元）あるいは１時間の授業の終末において，次時につながる新たな問いを生み出すのに有効な資料を吟味する。

#### ②学習の見通しをもつことができる学習活動を行うために

##### ○問題づくりの工夫

単元（小単元）あるいは１時間の導入において，適切な学習問題を設定するのに有効な資料を吟味する。

##### ○学習問題に対する予想

本時の学習問題に対して予想するのはもちろんのこと，単元の学習問題に対しても予想を行い，そこから単元で学習していくことを絞り込んでいく方法を模索する。

##### ○解決の方法を考える

単元の学習問題で予想したことをどう解決していくかについて考える活動から，単元の見通しをもち，主体的に学習していくことができる方法について研究する。

#### ③討論的な活動を通した，思考力，判断力，表現力を育てる指導方法を行うために

話し合い活動を通して，思考力，判断力，表現力を育てていくためには，教科にとらわれず，日常の様々な教育活動においてその力を培っていく必要がある。そのための方策には，次のような活動が考えられる。

- ・少人数での話し合い活動を有効に活用し，話し合う機会を増やす。
- ・説明するときには根拠を明確にし，資料などを提示するようにする。
- ・話し方・聞き方を指導し，話しやすい雰囲気をつくりあげる。
- ・語彙や専門用語を増やすために，辞書を活用したり，新聞を読む活動を取り入れたりする。
- ・友だちに説明したり後で振り返ったりするのに分かりやすいノートづくりを行う。
- ・学習活動が分かりやすい板書を心がけることで，論点を分かりやすくする。
- ・物事に対する批判的思考を自由に発言できる雰囲気をつくり，子供から疑問が出やすいようにする。

#### ④これからのよりよい社会を考える内容の教材開発を行うために

##### ○現在の社会を把握する。

これからのよりよい社会を考える教材を開発するために，教師自身が前もって対象となる社会的な事象や児童の様子を分析し，現状の把握を行う。

##### ○社会的な見方や考え方が広がり深まる教材を開発する。

単元の終末において到達した社会的な見方や考え方がより広がり深まることが期待できるような事象を開発する。その際，困難な状況においても自分を生かしつつ社会に貢献しようとしている人物に焦点を当てられるようにする。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

##### ①子供たちの思考が連続し、問題解決へと向かう方法の妥当性とその効果

単元を通して子供の問題意識が途切れない学習展開を模索することで、子供たちの学習意欲を単元の終末まで継続させることができた。また、次時につながる資料を授業の終末に提示することで、子供たちは次の時間を楽しみにするようになった。

##### ②学習の見通しを子供たちに共有させる方法の妥当性とその効果

問題意識を高め、予想し、解決の方法を考える活動は、学習の見通しをもつ上で有効な手段であった。単元の導入時に学習の見通しをもたせることで、従来の問題解決的な学習に比べ、特に「調べる」過程での目的意識が高まった。

##### ③話し合いの活動を活発にする方法の妥当性とその効果

話し合いの力を高める場を社会科のみならず、他教科や教育活動全般において意識したことは、子供たちのスキルアップに役立った。話し合いのスキルが上がるにつれて、発言内容についても高まりを見せたことから、思考力、判断力、表現力は相互に作用しながら成長していくことが実感できた。

##### ④よりよい社会を考える上での教材の妥当性とその効果

教師自身が社会に関心を持ち、多面的な視点で社会を捉え直す過程を辿ったことによって、社会に興味をもつ子供が増えてきた。新聞やテレビのニュース番組などで出会った事象に対して自分なりの意見を持ち、家庭でよく話し合うようになった児童も見られるようになった。

#### (2) 課題

- ・子供の思考が連続するであろう学習展開を模索したが、必ずしも指導者側の予想のように子供たちが動かないことがあった。児童の実態把握をより綿密に行っていく必要がある。
- ・子供の表現力のスキルが上がるにつれて、発言内容が高まる反面、一人あたりの発言時間が長くなることにより1単位時間内の発言数が制限されることがしばしばあった。子供が積極的に表現しつつ45分で完結する授業展開を構築していかなければならない。
- ・指導者にとって魅力のある教材であっても、子供にとっては若干難しい内容であることがあった。子供の目線で教材を捉え直す作業の重要性を感じた。

#### (3) 指定期間終了後の取組

社会科の問題解決的な学習を通して子供の思考・判断・表現力を養う研究は、今年度の本研究指定事業において一定の成果を得た。また、全国社会科教育研究大会における発表を通して、全国にその成果を発信することもできた。

しかし、今年度の取組が全ての単元において、あるいは他教科において十分に波及できたかといえば、まだまだ努力を要する段階である。また、子供の姿においても、成長している姿は大いに見られたが、どの子にも我々教職員一同が目指している力が十分な身に付いたとは言い難い。

本校では、学習の構築においても子供の姿においても現在は成長途上であると認識しているため、指定期間が終了した後も、今年度の成果をより広げ、深めていくことができるよう実践を積み重ねていきたいと考えている。